

第23号 クレーム解釈をめぐる諸問題

〔発行日：平成20年12月31日〕

目 次

・ 権利行使阻止の抗弁の要件事実 ー 最一判平20・4・24裁時1458号7頁の評釈を兼ねてー	高林 龍 1
・ 裁判例にみる均等論の本質的部分の認定手法	田村 善之 13
・ 作用効果不奏功の抗弁	飯塚 卓也 69
・ 特許法104条の3第1項立法以後のクレーム解釈について	美勢 克彦 84
・ 権利行使の抗弁 ー 侵害被疑物件・方法に特許が付与された場合の処理に関する試論ー	小池 豊 105
・ 特許法36条違反の有無とクレーム解釈の関係 ー 最近の判決を素材として	増井 和夫 133
・ クレーム解釈における信義則の適用について	宮垣 聡 154
・ 米国特許侵害訴訟における侵害と無効の判断にあたってのクレーム解釈	小林 一任 159
・ 化学（特に、医薬・化粧品・飲食品）分野の 用途発明の特許性および用途特許の効力について	津国 肇 170
・ 用途発明の実施に関連した三つの論点への考察	

紺野 昭男 208

・ 試練に立つ用途発明を巡る新規性論

南条 雅裕 225

研究員（敬称略、役職は報告書作成当時）

会員外研究員 高 林 龍（早稲田大学法学部・大学院法務研究科教授）

大 瀧 哲 也（東京大学法学部・大学院法学政治学研究科
教授）

田 村 善 之（北海道大学大学院法学研究科教授）

竹 中 俊 子（ワシントン大学ロースクール教授・早稲田大学客
員教授）

増 井 和 夫（弁護士）

美 勢 克 彦（弁護士）

飯 塚 卓 也（弁護士）

会員内研究員 津 国 肇（弁理士）

小 池 豊（弁護士・弁理士）

紺 野 昭 男（弁理士）

宮 垣 聡（弁護士・弁理士）

小 林 一 任（弁理士）

南 条 雅 裕（弁理士）